

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	9 月	19 日	記入者	久門たつお
調査者名	饗庭	垣内	久門	鶴田	

文化財名	篋(へら)の木				
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input checked="" type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他()
指定年月日	1953年(昭和28)3月23日				
所在地	五條市出屋敷町405				
所有者 管理者	個人				
員数	1本				
時代区分					
樹木の場合	(樹木名) ヘラノキ			(樹齢) 約80年	
案内板の状況	県教委設置の説明板有り。一部で塗料剥がれが有るが、文字読み取りに影響はない。				
公開	私有地の市道沿いに生育していて、道路からのみ観察できる。				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input checked="" type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足(高さは15mほどとみられる。)				
当面の課題	所有者は特に世話をしているわけではなく、自然に生育している状況。日当たりも良く、問題は特にないと思われる。				
今後の課題	篋の木前の市道(幅約2m)の拡幅計画があるが、篋の木には影響が出ないよう配慮されるという。将来も生育に支障が生じないよう関係者の努力を願いたい。				
その他 (由緒など)	篋の木はシナノキ科の落葉高木。花は7月ごろに淡黄色の小さな花を咲かせる。開花前につぼみを包む葉が、開花後は変化して篋状になることから、篋の木の名前が付いた。国内では主に九州から中国地方西部に分布し、県内では吉野川流域などにも散見されるという。自然に生育したものとしては県内のこの場所が国内の東限とされる。				
コメント	現地を訪れたのが9月だったため、花は枯れて落ち、篋状の葉のそばには見られなかった。篋状の葉は長さ6cmほど、幅1.5cmほどで、確かに篋に似た形をしていた。昔は篋の木の樹皮から抽出した繊維が衣服などの原料になっていたといい、生活に密着した樹木だったようだ。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020年	9月	19日	記入者	久門たつお
調査者名	饗庭	垣内	久門	鶴田	

文化財名	篋(へら)の木
------	---------

北から	東から(奥はケヤキの大木)
-----	---------------



7月ごろに咲く花を包んでいた葉(中央)。形が篋状

青々とした葉。9月だったので花は散っていた



へらノキの花(「六甲山の自然を学ぼう会」提供)

県教委設置の説明板

